

有機農業を核とした持続的な地域づくり



浜田市農林振興課
普及支援担当課長 岡田 浄

浜田市の概要

平成17年10月1日に、浜田市、金城町、旭町、弥栄町、三隅町の5市町村が合併し、新「浜田市」が誕生しました。

海・山などの美しい自然と、「石見神楽」やユネスコ無形文化財遺産「石州半紙」などの伝統文化、豊かな自然を活かした観光資源を有しており、教育文化施設が充実した島根県西部の中核都市です。



- ✓ 面積・・・690.66km²（東京23区よりやや広い）
- ✓ 人口・・・51,386人（令和4年2月末現在）
- ✓ 世帯・・・25,658世帯（令和4年2月末現在）

農地の状況

農業振興地域 農用地区域内の農地の状況（令和3年10月1日現在）（単位：ha）

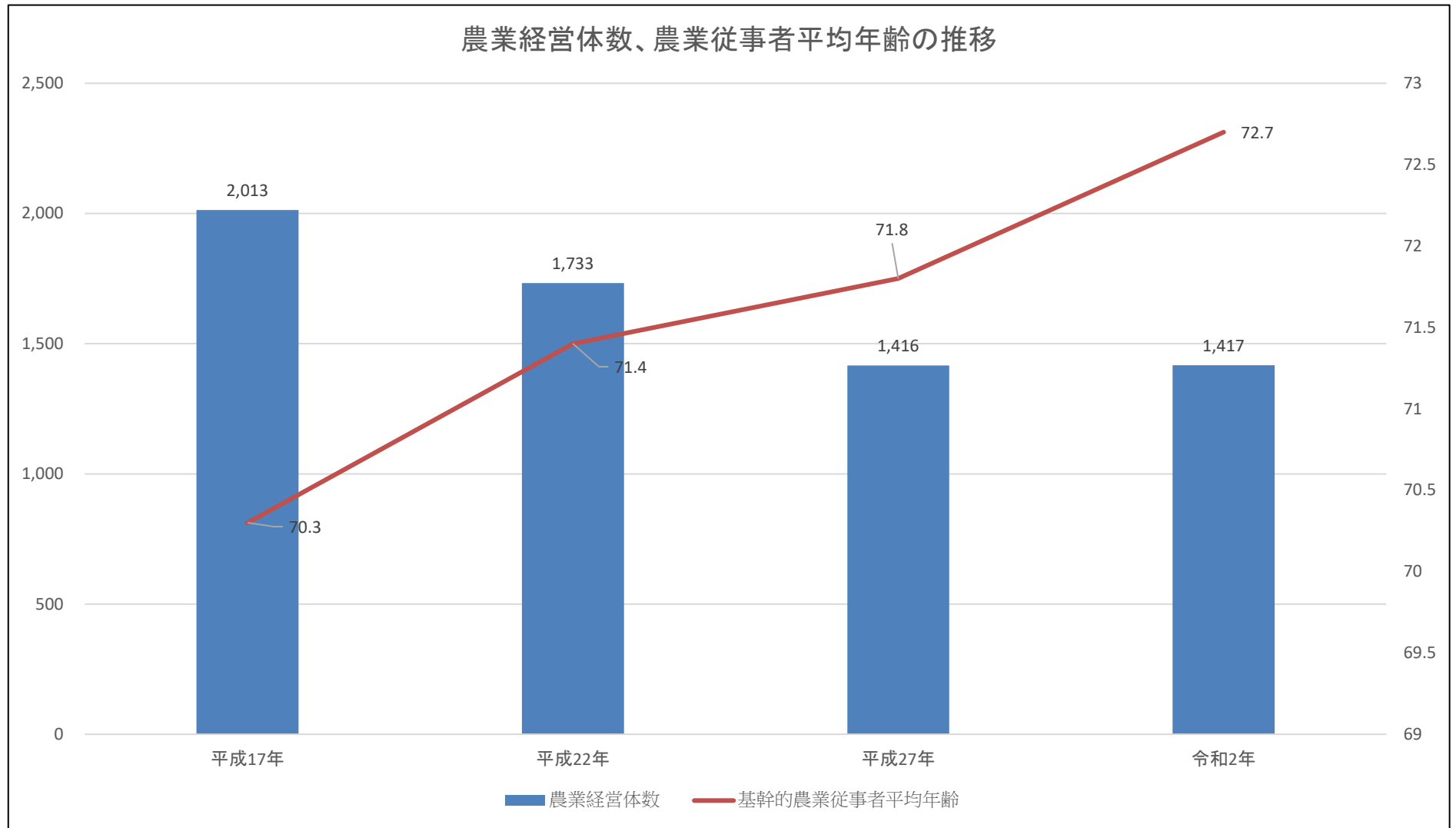
	農 用 地						混木 林地	農業用 施設 用地	合 計
	農 地				採草 放牧地	農用地 計			
	田	畑	果樹園	農地計					
農 地	2,241.0	340.5	311.4	2,892.9	140.5	3,031.8	6.3	23.9	3,062.0
荒廢農地	167.3	70.0	0	237.2					237.2
合計	2,408.3	410.5	311.4	3,130.1	140.5	3,076.8	6.3	23.9	3,299.2

水稻の作付け状況（経営所得安定対策の水稻細目書から）（単位：ha）

	平成30年度			令和元年度			令和2年度			令和3年度		
	対象 水田	水稻 作付	転作	対象 水田	水稻 作付	転作	対象 水田	水稻 作付	転作	対象 水田	水稻 作付	転作
浜 田	348.2	172.8	175.4	329.7	167.1	162.6	328.6	156.1	172.5	315.0	157.2	157.8
金 城	535.9	338.5	197.4	529.5	339.2	190.3	527.9	338.6	189.3	526.4	332.2	194.2
旭	376.2	220.5	155.7	354.2	215.0	139.2	351.5	210.8	140.7	350.2	207.2	143.0
弥 栄	277.4	174.5	102.9	272.5	171.0	101.5	271.9	165.8	106.1	271.9	163.7	108.2
三 隅	282.6	142.8	139.8	266.6	137.1	129.5	264.6	131.4	133.2	262.9	124.1	138.8
合 計	1,820.3	1,049.0	771.2	1,752.5	1,029.4	723.1	1,744.5	1,002.7	741.8	1,726.4	984.4	742.0

※ 浜田市農業再生協議会 調べ

農業経営体数・農業従事者平均年齢



➡担い手の減少及び高齢化(引退年齢:75歳)

農業産出額

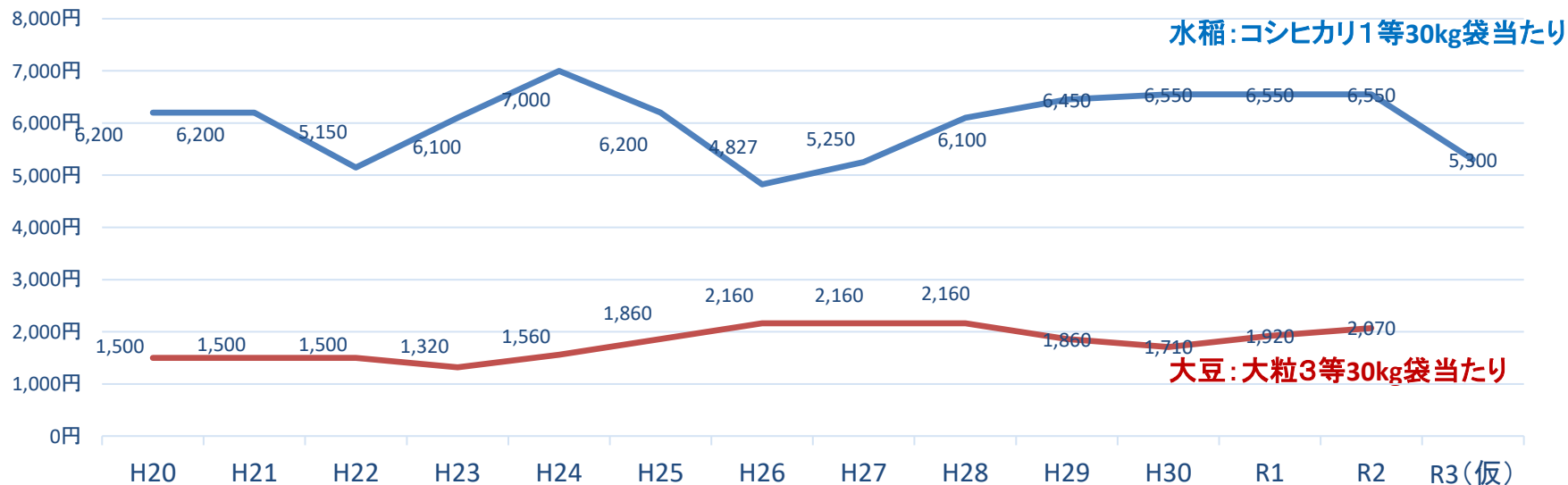
農業産出額の状況（浜田市産地強化協議会 調べ）

（単位：千円）

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	前年比	対前年増減
水稻	1,475,105	1,166,415	1,201,039	1,216,156	1,287,617	1,240,669	1,163,076	1,161,648	99.9%	▲1,428
肉豚	980,222	1,183,534	1,249,557	1,173,592	1,160,848	1,061,031	1,149,286	1,142,980	99.5%	▲6,306
有機野菜	399,543	438,131	451,486	459,365	454,571	468,460	462,890	486,420	105.1%	23,530
生乳	－	－	－	－	－	－	196,702	766,920	389.9%	570,218
肉牛	124,270	122,626	151,237	133,332	128,716	150,200	183,470	294,826	160.7%	111,356
赤梨	94,482	96,000	99,308	75,429	88,532	69,836	70,427	21,904	31.1%	▲48,523
花卉	59,935	57,137	62,961	55,027	47,130	43,100	42,769	34,450	80.5%	▲8,319
しいたけ類	47,080	52,697	55,220	51,615	48,651	42,715	40,596	44,838	110.4%	4,242
西条柿	46,251	57,402	54,930	59,682	76,020	79,910	74,599	57,849	77.5%	▲16,750
観光農園	36,007	44,130	32,674	29,612	24,379	35,170	42,937	27,538	64.1%	▲15,399
お茶	38,322	30,000	30,000	30,000	30,000	41,609	40,420	40,000	99.0%	▲420
ぶどう類	17,125	21,460	29,337	21,723	26,480	25,807	23,711	22,850	96.4%	▲861
養蜂	20,740	20,826	21,000	27,000	27,000	26,000	26,000	26,085	100.3%	85
キャベツ	11,418	8,724	10,132	9,821	7,663	10,843	7,234	6,023	83.3%	▲1,211
なす	8,566	9,738	8,783	10,348	8,952	9,621	7,128	6,368	89.3%	▲760
サツマイモ	5,218	6,920	7,785	8,040	5,380	15,097	13,047	10,613	81.3%	▲2,434
豆類	4,802	5,233	1,191	2,300	2,297	3,934	2,975	2,647	89.0%	▲328
いちじく	5,887	4,827	4,837	3,866	3,595	3,681	3,930	2,385	60.7%	▲1,545
あすっこ	5,159	5,423	4,635	3,036	3,924	2,361	2,103	2,029	96.5%	▲74
トマト	1,025	795	1,025	458	282	14,762	81,616	76,898	94.2%	▲4,718
その他	6,497	6,795	5,353	3,850	3,278	2,470	2,198	1,926	0.1%	▲272
農産加工品	11,368	10,552	14,537	13,000	16,182	14,789	13,170	13,484	102.4%	314
産直市場	240,325	259,816	269,960	267,827	249,571	247,431	250,072	246,956	98.8%	▲3,116
合 計	3,639,347	3,609,181	3,766,987	3,655,079	3,701,068	3,609,496	3,900,356	4,497,637	115%	597,281

浜田市の農家収入の状況

JAしまね いわみ中央 水稲・大豆概算金の推移



水稲収入の令和3年概算(1反(10a)当たり)

水稲

$495\text{kg} \div 30\text{kg} \times 5,300\text{円} = 87,450\text{円}$ (18,825円)

※ 標準反収 浜田 495kg

県農業経営指導指針 510kg(平坦部中規模、中山間地域)

※ 経費 県農業経営指導指針 68,625円(中山間地域)

➡水稲中心の農業への取り組みを行っているが、水稲の価格低迷が大きく影響

- 1 農地の大半が山間地域
→農地が荒れることにより、地域の崩壊
- 2 水稻中心の土地利用型農業
→米価の下落により継続困難
- 3 集落営農組織も高齢化
→新たな仕組み作り
- 4 葉物野菜を中心とした施設園芸
→資材の高騰化

浜田市農業の推進方向



振興作物の取組

大粒ぶどう



- ① 圃場面積の拡大
（初期投資の負担軽減）
- ② 早期栽培、品質向上技術の導入
- ③ 反収の向上
- ④ 優良品種、新品種の導入

赤梨



- ① 反収の向上（老木の改植）
- ② 園地の継承
- ③ 省力化栽培技術の導入
- ④ 品質向上技術の導入
- ⑤ 規格外品の活用（加工品開発）

西条柿



- ① 反収の向上（老木の改植）
- ② 加工品への活用
- ③ 省力化栽培技術の導入
- ④ 品質向上技術の導入
- ⑤ 園地の継承、圃場の拡大

- 栽培技術、加工技術への支援
- 優良品種への転換、導入（新殖、補植への支援）
- 圃場面積の拡大（農地の集積、施設の整備）
- ハウス等施設整備、改修への支援
- 選果場、加工場の整備への支援

令和2年度から指定 有機野菜



成長産業として位置付け

浜田市としては、面的に管理を行う集落営農組織仕組みづくりを行い、収益性の高い有機農業の推進の両輪で持続的な農業の仕組みづくりを行う。

有機農業

集落営農

★露地有機野菜の導入

- ・有機ニンジン
- ・有機ブロッコリー
- 楽天農業との連携
- ヤンマーアグリジャパンとの連携

★広域連携組織の設立

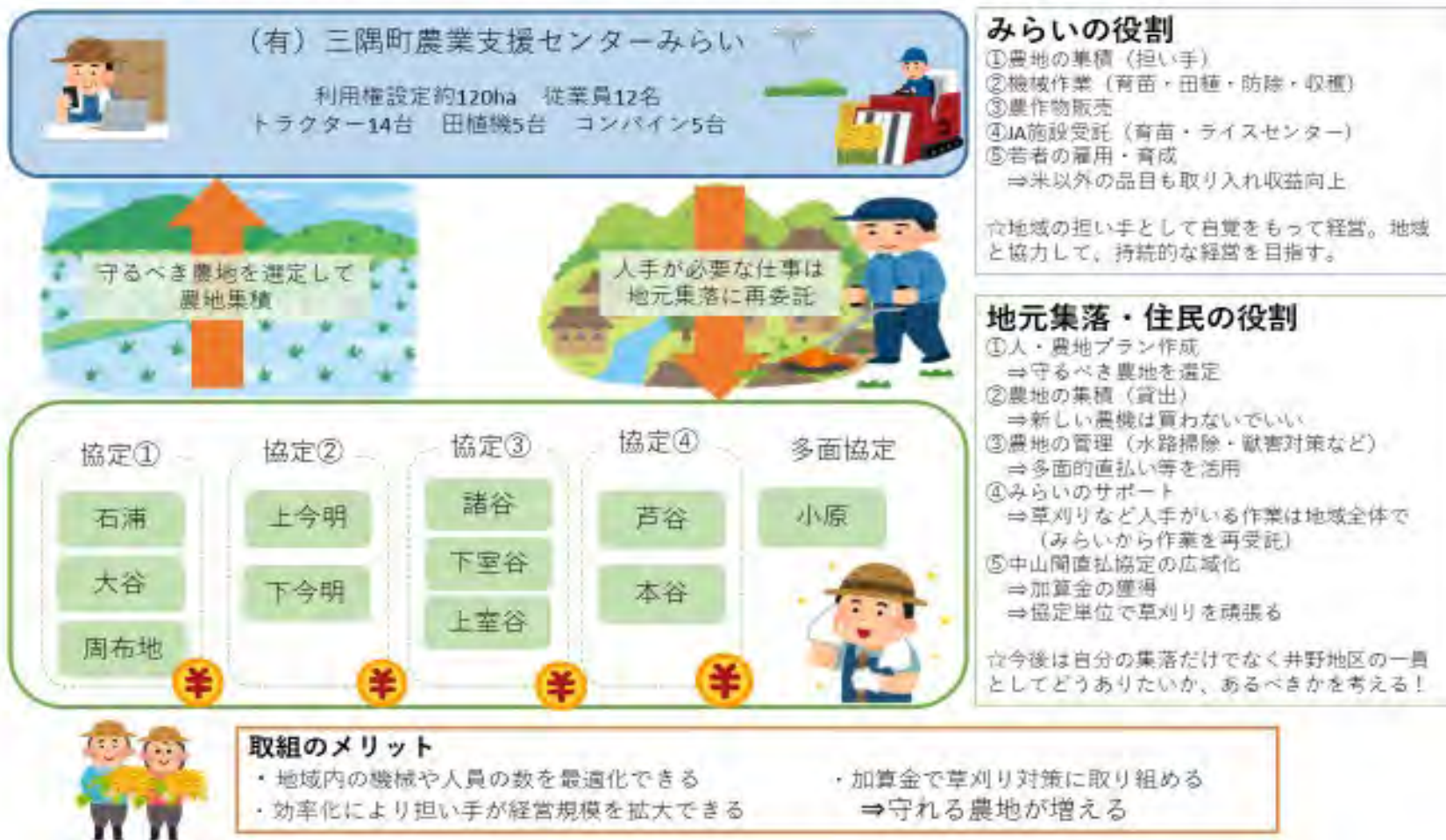
- ・集落内連携
- 草刈り、水管理
- ・集落間連携
- 水稻の期間作業
- ・地域間連携
- ドローンのヘリ防除
- ・センチピードグラスの吹き付け

広域連携組織の設立

井野連携体制イメージ図

農家や集落営農オペレーターの高齢化により耕作放棄地が増えてきています。一方、担い手には条件の悪い農地から点々と集積されており、効率が悪く収益があがらないため、これ以上の拡大は難しい状況です。また、調査の結果、多くの機械が地域内に存在していることがわかりました。今後、故障や更新のタイミングで委託や集積希望が増えそうですが、担い手はぎりぎりの機械・人員で経営しているため急には受けることができません。

このような状況を打開するためには、今一度地域全体で話しあい、集落間や地域と担い手の間で情報共有を高め、連携を強めていく必要があります！担い手や他の集落に任せきりになるのではなく、地域全体で農業に取り組んで行くことが大切です。



現況説明

【現況から考える取り組みの方向性】

1 背景

◆浜田市の状況として、担い手の減少と高齢化が更に進むことが予想され、今後、持続的に農地を守っていく為には、担い手対策、収益性の向上対策、スマート農業の導入を積極的に行なっていく。

2 取り組み

(1) 水稻

◆井関農機連携

- ・有機米への取り組み→アイガモロボットの導入

(2) 野菜

◆楽天農業との連携

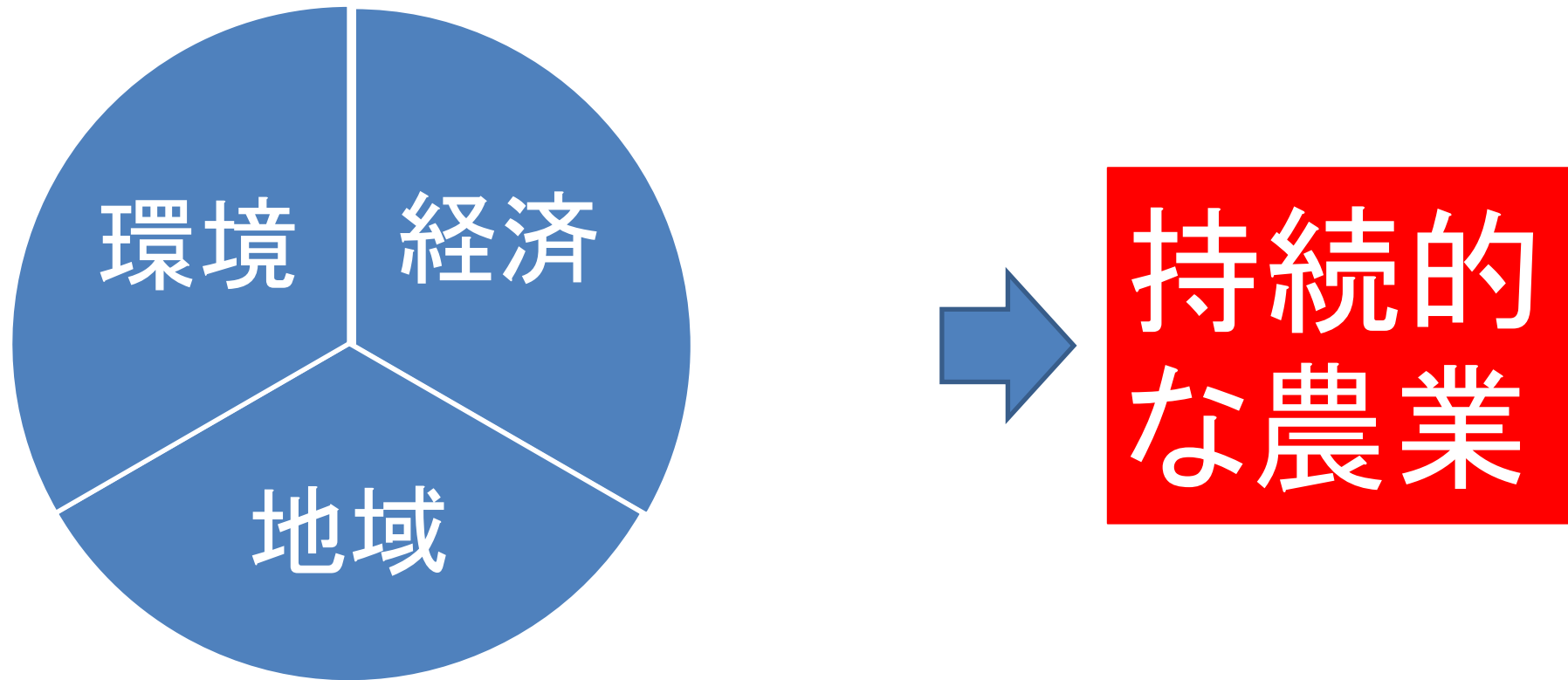
- ・露地野菜への取り組み→有機ブロッコリーの導入
- ・余剰野菜の活用→有機ほうれん草の出荷→R4:5t出荷

◆ヤンマーアグリジャパン連携

- ・作業の機械化→有機エンジンの作業の機械化
- ・廃棄物の肥料化検討→調整作業で出る廃棄物の肥料化

有機農業推進への考え方

浜田市としては、有機農業を推進する目的として、環境と経済の両輪を推進し、地域全体で意識することにより持続的な農業への確立を目指していく。



有機農業推進への考え方

浜田市としては、有機農業を推進していく上で、今まで環境に配慮した農業を行ってきた地域と、早くから有機農業の必要性を認識し取り組んできた2経営体の存在が大きい。

これからと今からの取り組みを組み合わせる事で、更なる振興を行っていく。

旧弥栄村



株式会社ぐり〜んは〜と

GREENHEART Co., Ltd



やさか共同農場

YASAKA JOINT FARM

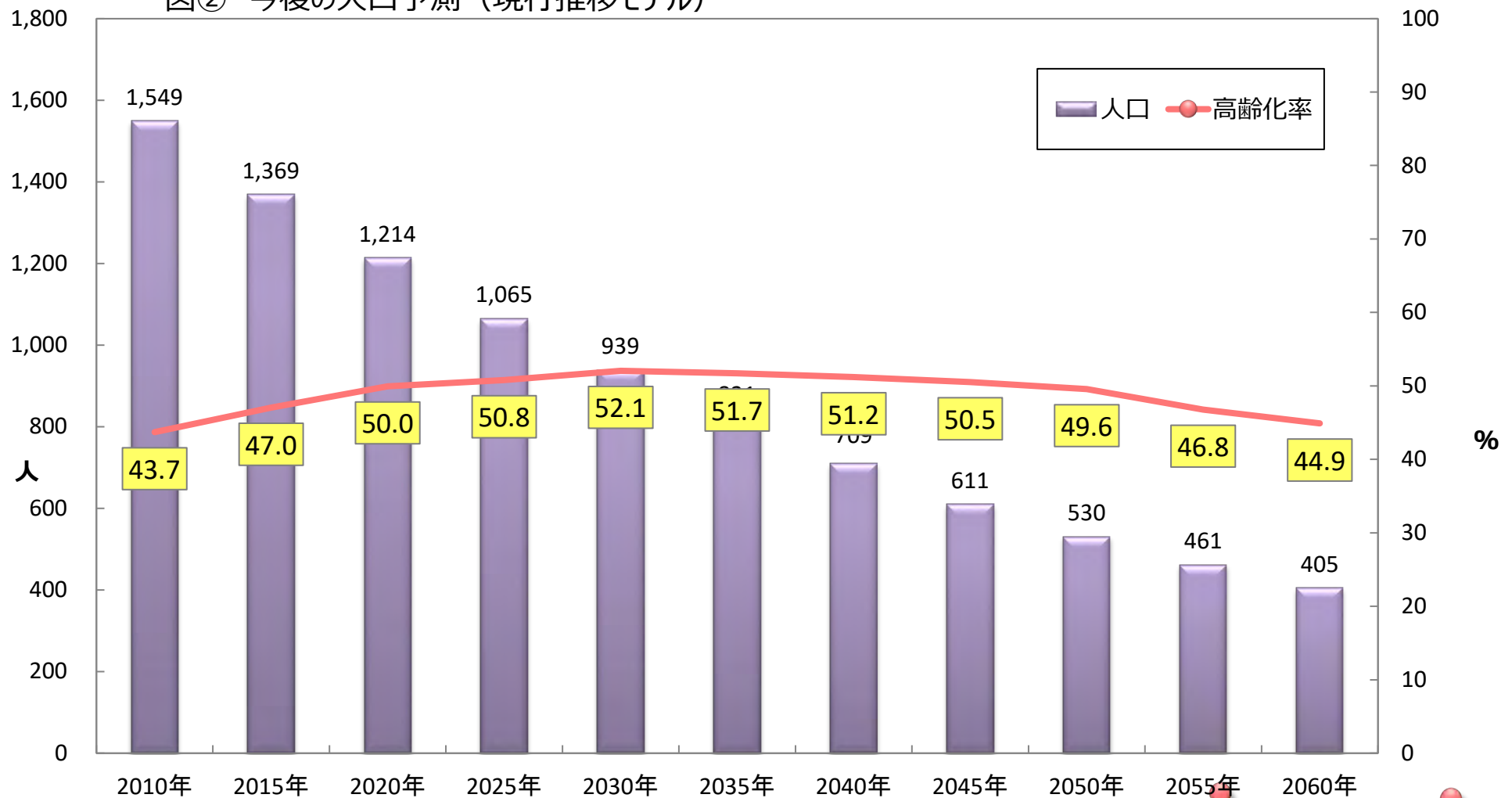


企業連携 =

- ・新規就農者の確保
- ・販路開拓
- ・作業の省力化
- ・商品開発
- ・消費者交流

弥栄の状況（人口の推移）

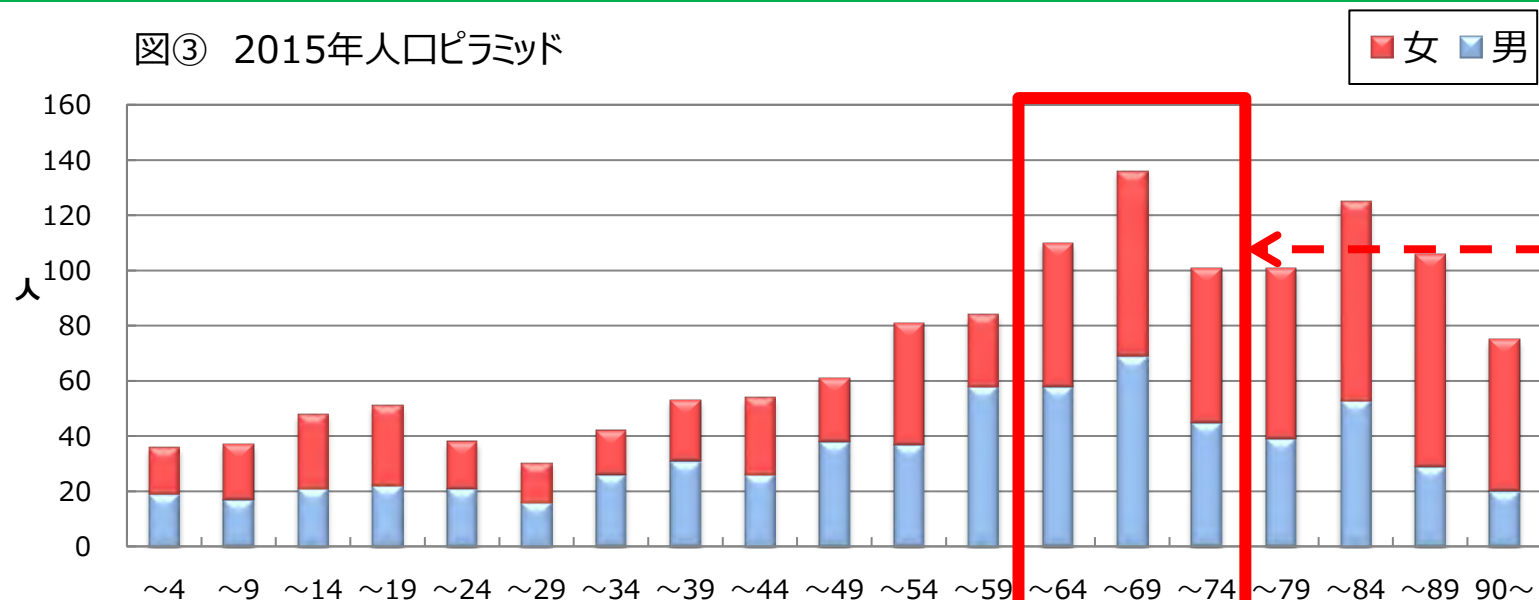
図② 今後の人口予測（現行推移モデル）



毎年約30人の人口減。出生は1ケタ。人口減少の上に超高齢化が待ち受けている。

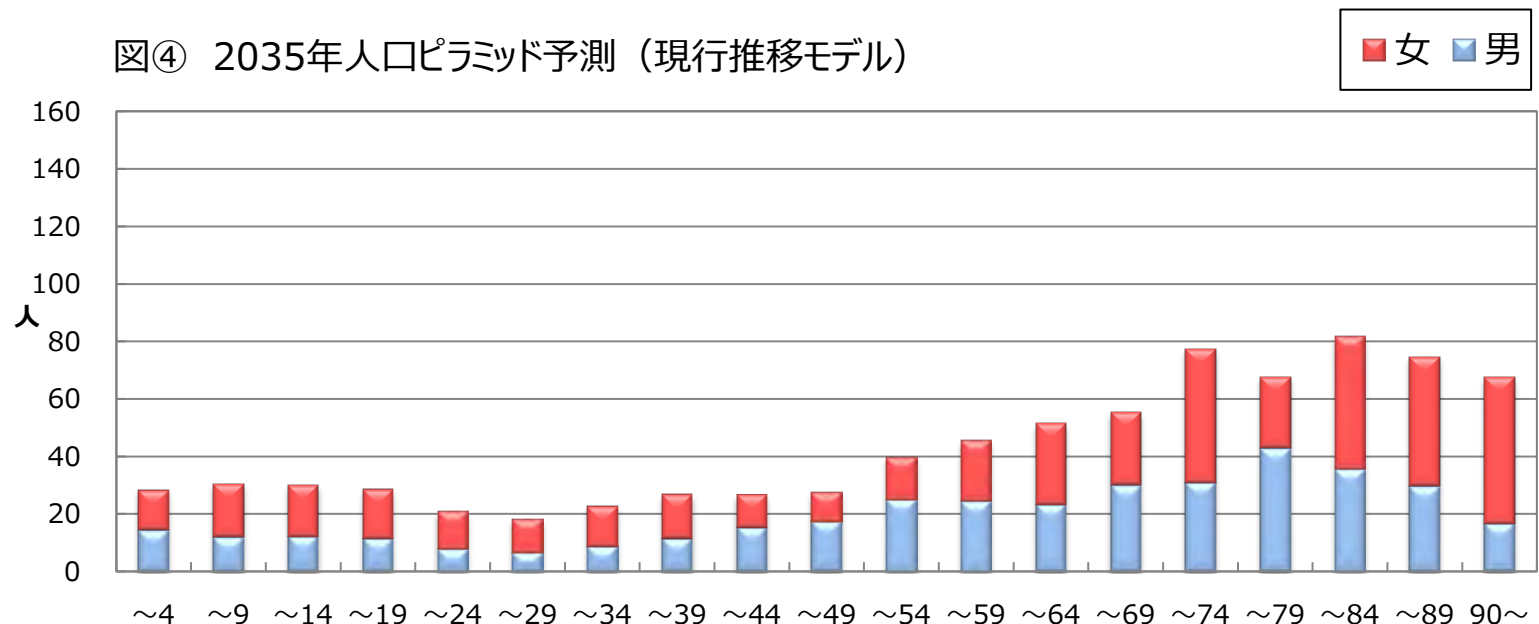
弥栄の状況(人口の推移)

図③ 2015年人口ピラミッド



農業も60〜75歳
までの方が中心世
代！
ゴールデン世代！

図④ 2035年人口ピラミッド予測（現行推移モデル）



20年後は誰が？

有機米の取り組み推進

1 目的

浜田市においては、**農地の大半を水稻で管理**しており、その**水稻を価値化**していき、**収益性の向上**を行い、**持続的な農業**を行う。

2 現状と目標

現状面積(R4)	目標面積(R8)	備考
6. 0ha	20. 0ha	

3 課題と対応策

(1) 除草作業・・・アイガモロボの導入

(2) 販路拡大・・・地元販売業者との連携

➡(株)井関農機×島根県×浜田市連携協定の締結

4 検討事項

◆集落営農法人：有機米に対する意識改革

→収益性と除草対策(特別栽培米：6、000円→有機米12、000円)

◆個人：経営形態の拡大(才ぺ、施設、農地)

→産地としての施設整備

有機米の取り組み推進(株)井関農機 × 島根県 × 浜田市

(株)井関農機 × 島根県 × 浜田市包括的連携協定の締結

1 連携協定の目的

持続可能な発展のための有機米の産地づくりに向けて、井関農機、島根県、浜田市が連携協定の締結を行う。

2 連携協定内容

- (1) 有機米生産の省力化・低コスト化
- (2) 有機米の生産技術の普及
- (3) 有機米の販売流通体制



連携協定締結の様子



連携協定締結時の担当者

有機米の取り組み推進(株)井関農機 × 島根県 × 浜田市

(株)井関農機 × 島根県 × 浜田市包括的連携協定の締結

3 取り組み内容

(1) アイガモロボの導入

→R4については、実証圃を6ヶ所設置したが、土壌の状態により抑草効果についてもバラツキがあった。



アイガモロボ放鳥式



アイガモロボ！

4 取り組み結果

- ・土壌によっては、雑草の発生もあった



有機米圃場の様子

5 今後の取り組み

- ◆学校給食への取り組み
- ◆来季への対策検討

➡アイガモロボが取り組みのきっかけづくり！

(株)ぐり～んは～と

代表取締役: 佐々木一郎
(2008年4月設立、資本金210万円)

〈設立目的〉

いわみ地方有機野菜の会として組織的販売力を強化するために共同出資して設立した販売会社

〈主な業務〉

- 商談、受発注、代金決済
- 営農支援
(資材の共同購入、土壌分析etc)



〈販売概要〉

〔売上額〕 約2億4千万円

〔取扱量〕 約400t

〔販売エリア〕 県内、北海道～沖縄

(2020年度実績)

〈主な取引先〉(一部)

- ◇こだわりや
- ◇風水プロジェクト
- ◇オルター
- ◇生協関係
- ◇オイシックス・ラ・大地 etc



いわみ地方有機野菜の会

代表者:大畑安夫 設立:2005年
会 員:14名 (法人:4 生産者:8名、関係者:2名)

〈理念〉

- 消費者に喜ばれ、地域に貢献する有機(エコ)野菜産地を目指す
- 環境・生態調和のとれた栽培技術と持続・継続出来る農業経営を目指す

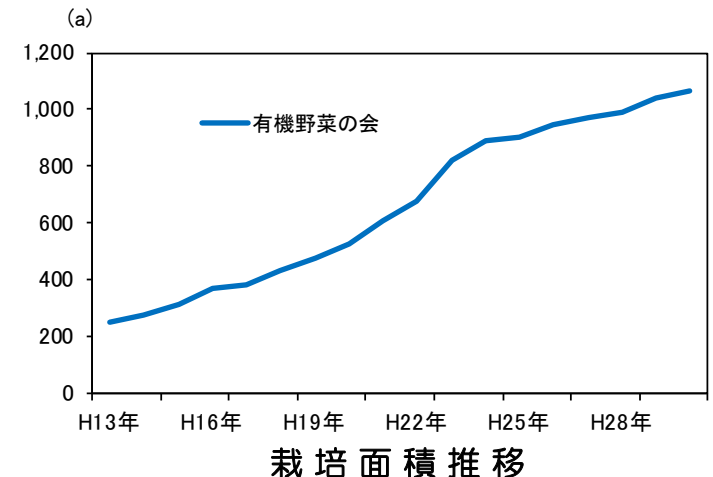
〈主な取り組み〉

- 技術研鑽 (技術的な情報の共有等)
- 新商品開発
- 交流活動 (学校教育、消費者等)



〈組織概要〉 (2020年現在)

〔施設面積〕 12.0ha 〔ハウス棟数〕 440棟
〔主力品目〕 ほうれん草、小松菜、水菜、葉ねぎ
春菊、ミニチンゲンサイほか
〔販売量〕 約800t
〔販売額〕 約4.8億円 (取引先:約130社)



(有)やさか共同農場

代表取締役: 佐藤大輔
(住所: 浜田市弥栄町三里ハ38番地)

有機JASマーク



これまでのあゆみ

◇昭和47年から、無農薬農産物を生産、販売やみそ製造加工等を中心とした事業を展開し、平成元年に法人設立。



事業概要

〈農産物生産・販売〉

- ◇水稲、大豆、大麦: 25ha
- ◇施設野菜(葉菜類): 1.0ha
- ◇露地野菜(加工トマト等): 5ha



〈加工品製造・販売〉

- ◇加工品(味噌、糀、トマトジュース等)製造販売

〔主要取引先〕

- ◇首都・関西圏の宅配業者、生協、量販店等



経営理念

◇自社生産だけでなく、地元生産者等との連携・協働による有機農業の面的拡大と販路開拓を通じ、地域での有機農業の発展に寄与しつつ、安全で安心できる農産物を多くの方々にお届けする。

◇有機農業を志向する新規就農者の受入れ等を通じ、地域で有機農業に取り組んでいく人材育成を行い、地域の有機農業の発展に寄与する。

有機野菜の取り組み推進

1 目的

既存の生産者が、施設野菜において葉物野菜に取り組んでこれ、生産額も向上し、浜田市の中心的な経営体となっている。

現在、施設の高騰が深刻な問題となり、露地の有機野菜に取り組む事により、経営拡大を行い、市としても生産振興に結び付ける。

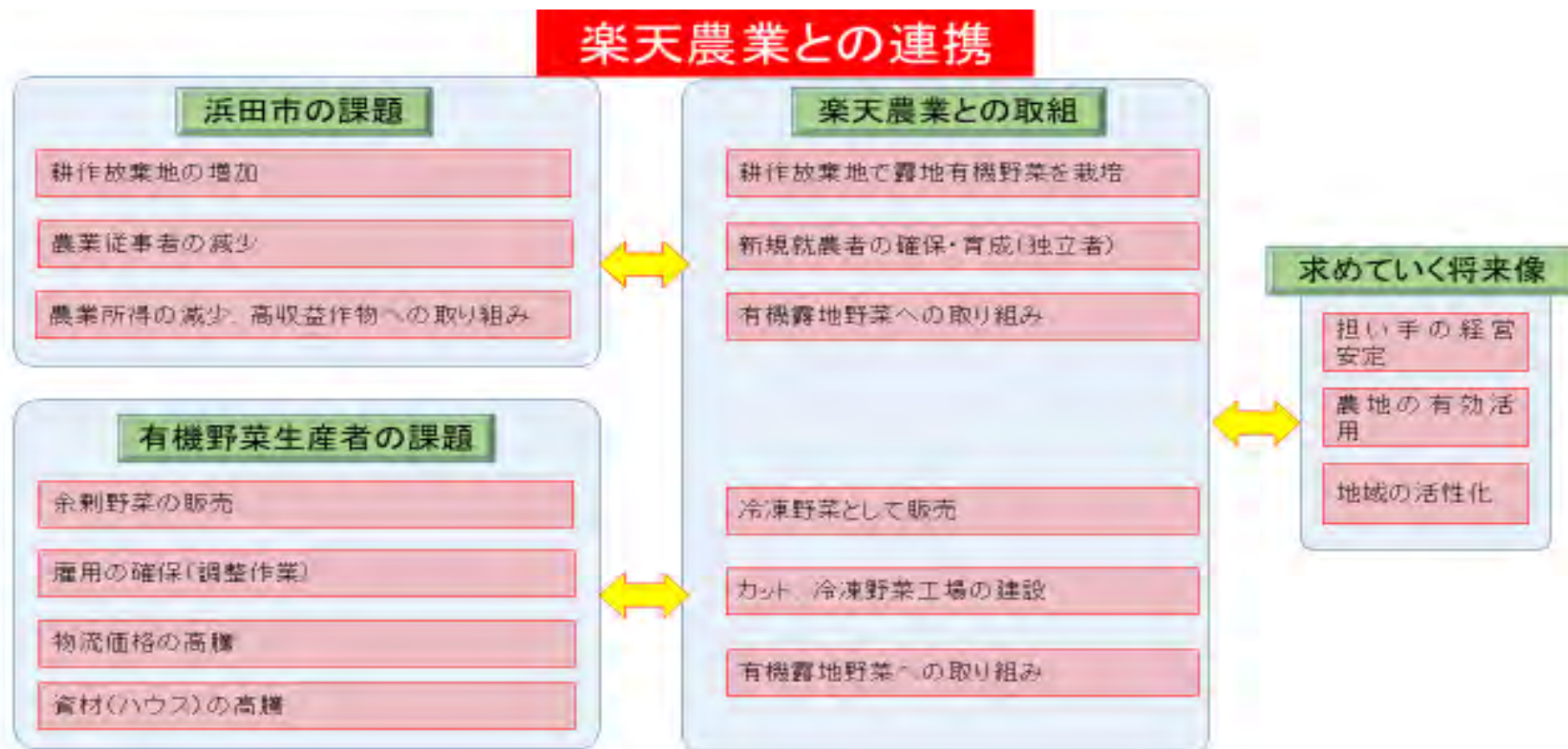
2 課題

- (1) 担い手の確保・・・冷凍カット野菜への取り組み、機械の省力化
- (2) 販路拡大・・・冷凍カット野菜への取り組み
- (3) 露地野菜の導入・・・有機ブロッコリー、有機人参の実証
➡ 楽天農業、ヤンマーアグリジャパンとの連携

楽天農業との連携

1 目的

施設の高騰化が進む中で、新たな露地野菜の導入を行う事を目的に島根県を中心に楽天農業との連携を行う。



有機野菜の取り組み推進

楽天農業との連携

2 取り組み内容

(1) 余剰野菜の価値化

- ・今まで廃棄していた春先の余剰野菜を有効活用 ➡ R4: 5tの出荷

(2) 有機ブロッコリーの導入

- ・新規就農者 1名
- ・認定農業者 4経営体
- ・集落営農法人 1法人

➡ 今秋から作付け開始

(3) 遊休農地の有効活用

- ・R4: 農地を管理予定



生産者研修会 (R4.8.17)

ヤンマーアグリジャパンとの連携（中山間地域のオーガニック産地づくり）

1 目的

今後、地域内の人口減少や法人内の雇用不足が課題となる中で、ヤンマーアグリジャパンとの連携により、自動操舵機械の導入し、省力化を行い、経営規模の拡大を行っていく。

2 取り組み内容

◇有機エンジンの作業の機械化

・畝立て・除草・収穫

➡R5から自動操舵機械の導入

◇廃棄野菜の肥料化

・有機野菜を材料にした肥料づくり



現地研修会（R4.8.26）

次世代へ地域と農業を引き継ぐ為に！

